

American Council on the Teaching of Foreign Languages
Language Testing International

ACTFL-LTIテスト

本当の外国語コミュニケーション能力を測定しませんか？

英語

日本語

韓国語

イタリア語

フランス

ドイツ語

120か国語以上を測定可能

ACTFL(全米外国語教育協会)について

ACTFLは、1967年に設立されたあらゆるレベルの言語教育において、あらゆる言語の教育と学習の改善および拡大を目的とし、13,000以上の会員を有する組織です。US連邦政府のILR基準*を引き継ぎ、商用版の基準 (ACTFLプロフィシエンシー・ガイドライン) を開発し、テストや評価者を育成して、ACTFLアセスメントを開発・監修しています。Language Testing International社(LTI社)は、米国ニューヨークに本社を置き、ACTFLの専売テストプロバイダーとして、60か国以上で120を超える言語運用能力テストを実施しています。個人向けのオンラインテストに加え、1992年以来、政府機関、fortune500企業、中小企業、学術機関などにACTFLアセスメントを提供してきました。

*1950年代後半に初めて作られ、US Service officerが現場に派遣される前にスピーキング、リスニング、リーディング能力を測定するための評価方法として、US Foreign Service Institute (FSI)によって開発されました。(現在は、Writingも測定可能)

ACTFL-LTIテストは120か国語*以上の言語運用能力(コミュニケーション能力)を測定可能！

(テストタイプによって、対応言語数が異なる)

ACTFL-LTIテストは、職場や日常生活において、4技能(Listening, Speaking, ReadingとWriting)を活用してどのくらいコミュニケーションが取れるかを測定する言語運用能力テストです。テスト結果はACTFLプロフィシエンシー・ガイドライン(2024年版)に基づいて公認評価者が厳格かつ迅速に評価を行い、10レベルで公平に評価いたします。ACTFL基準は、CEFR基準(ヨーロッパ言語共通参照枠)及びILRの評価基準との対比もできます。

ACTFL-LTIテストについて

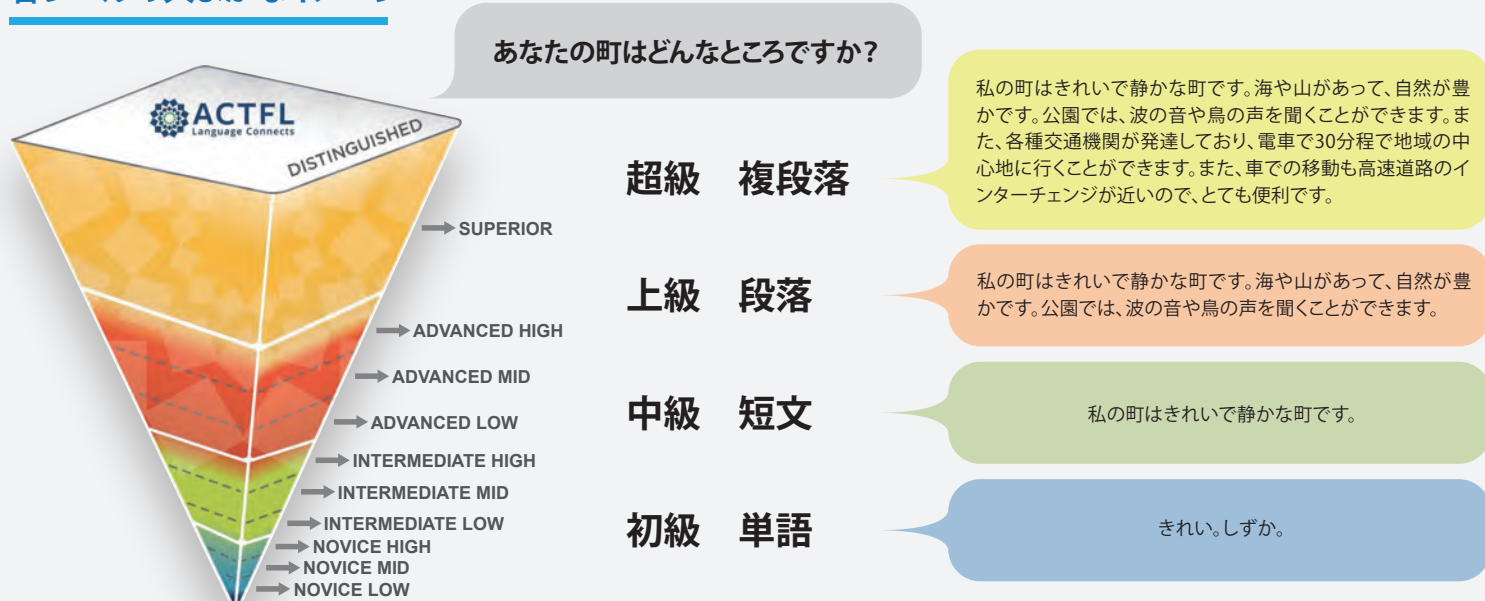
- ・一つのガイドラインで120か国語以上を測定可能
- ・学協会ACTFLからの評価&証明書発行
- ・数少ない口頭能力テストの中で、最も歴史が長い(1980年代～)
- ・合格不合格というテストではなく、公開されているガイドラインに基づいた判定
- ・4技能の言語運用能力(コミュニケーション能力)を測定
- ・バックグラウンド・サーベイに基づき受験者一人一人に合わせて出題
- ・Webベースでの受験で、いつでもどこでも受験可能(OPI除く)
- ・公平な評価を行い、適切な人材評価と配置が可能
- ・受験者が事前に指定した、ACTFL/CEFR/ILRいずれかの1つの基準で、ACTFLの名義で証明書を発行します。この証明書は発行日より2年間有効となります。





- PC / タブレットを利用したiBT (Internet based Test)形式のスピーキングテストです。
- バックグラウンド・サーベイに基づき、個々の受験者になじみのあるトピックについての出題がなされます。事前に受験者の語学レベルに応じて難易度を調整するためのセルフアセスメントを実施し、選択したセルフアセスメントに基づいて、受験者一人一人に応じて、適切な質問が出題されます。
- インタビュー感覚で、アバターから12~17問程度出題され、質問を2回まで確認できます。
- テスト所要時間は大凡20分から40分となります。
- 受験者は、各出題に口頭で回答し(回答は録音されます)、テスト終了後にACTFL公認評価者が評価を行います。
- OPIcテストは、「ウォームアップ→レベルチェック→突き上げ→ロールプレイ→締めくくり」との流れで言語運用能力を最大限に測定します。

各レベルの大まかなイメージ



その他のACTFL-LTIテスト一覧

ACTFL OPI Oral Proficiency Test (スピーキング)

コミュニケーション能力を測定するテストです。
OPI(Oral Proficiency Test)は、実際の評価者と電話を通じて会話をします。

ACTFL RPT Reading Proficiency Test (リーディング)

文章を読んで、内容についての理解力を試す設問に答えるテストです。本やエッセイ、報告書などの文章からいかに多くの情報を正確に引き出すことができるかを判定します。

ACTFL WPT Writing Proficiency Test (ライティング)

ライティング能力を測定するテストです。
OPI(c)と同様にバックグラウンド・サーベイ及びセルフアセスメントに基づいてカスタマイズされたテーマに沿って出題され、文章を作成します。

ACTFL LPT Listening Proficiency Test (リスニング)

日常的、社会的、学問的な内容のスピーチを聞いて、内容をいかに理解することができたかを問う設問に答えるテストです。

L&RCAT Listening and Reading Computer Adaptive Test (リスニング&リーディング)

コンピュータ適合型読解、聴解テストです。受験者の回答パターンを分析して問題が変化していき、すばやくより正確な判定ができます。

AAPPL 小中高生向けで、11か国語測定可能

「World-Readiness Standards for Learning Languages(言語学習スタンダード)」に対応し、言語運用能力を育てていくパフォーマンステストです。現在のコミュニケーション・メディアを利用して、受験者はバーチャルビデオチャットに参加したり、Eメールメッセージを書いたりして、言語運用能力(例:即興演劇)の獲得を目指した言語能力(例:台本のある演劇)を測定します。

